

地域情報誌「きのかわトークニュース」に掲載されました ～ リンパ浮腫セラピスト ～

乳がんの腫瘍切除手術の際に、わきのリンパ節を切除する場合、その後遺症として治療後に腕にむくみが起こることがあります。これが「リンパ浮腫」と呼ばれる症状です。リンパ浮腫を発症すると、手がだるい、重たいなどとともに、外見的变化によって長期にわたり患者を悩まします。手術後すぐに発症する場合もあれば、何年も経た後に発症する場合もあります。一度発症すると治ることは難しく、それが、乳がんの術後の経過を長く診て行かなければならない主な理由の1つとなっています。



しかし、それらリンパ浮腫の症状は、「リンパドレナージ」と呼ばれるマッサージでかなり軽減することができます。患者の命を救うことと同時に、術後の生活の質も考える「クオリティ・オブ・ライフ」に取り組む橋本市の紀和病院では、リンパドレナージを術後の治療に積極的に取り入れています。それを同院で一手に担っているのが、医療リンパドレナージセラピストの森脇愛さんです。

森脇さんは週5日、リンパ浮腫外来で訪れる患者に対し、マッサージ、包帯による圧迫療法などの施術を行いながら、患者自身が日常的に行うセルフケアの指導をしています。お一人に対し、1時間～1時間20分くらいかけ、とても丁寧に行っていくそうです。

日々、一生懸命に患者と向き合う中で、「患部のことだけではなく、全身状態を診ながら、医師と相談しながら進めていかなければならないのが、難しいところです」と話します。しかし一方では「患者さんに「楽になった」とか、『有難う』と言われる時にこの仕事をしていて良かったと感じます」とも。また、「不安を抱えている方も多いので、ゆっくりお話を伺いながら精神的なケアも考えています」と。森脇さんは現在の紀和病院の乳がん治療にとって、なくてはならない頼もしい存在となっています。

リンパ浮腫でお悩みの方は紀和病院へご相談されてはいかがでしょうか。
Tel.0736-33-5000(代)



「『有難う』患者さんの言葉がやりがいです」

紀和病院リハビリテーション部
理学療法士 森脇 愛さん

